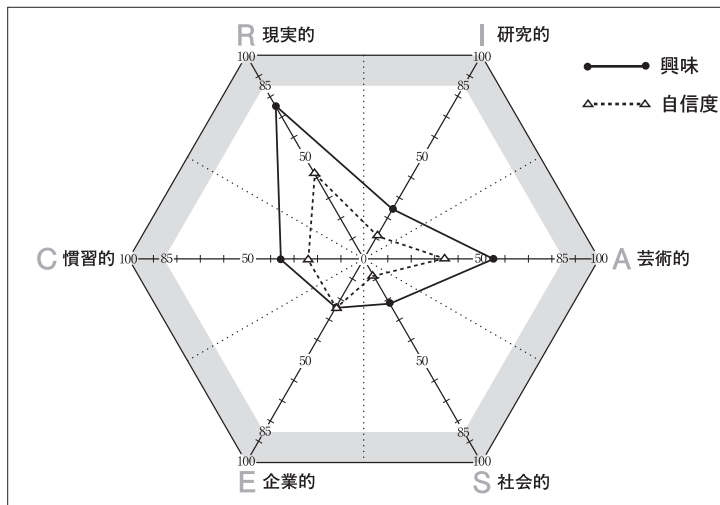


VRT 結果プロフィール

■興味 (A検査) と自信 (C検査) の六角形



■VRTの結果について

興味領域については、Rの現実的領域が75パーセンタイルと比較的高かったが、その他の領域はA以外いずれも非常に低かった。回答用紙を確認してみると、「どちらともいえない」は特别多いほうではなく、ほとんどが「やりたくない」であった。これは、就職への意欲の不足に起因するのか、唯一高かったR領域に関連する「一人でこつこつとする仕事を好む傾向が強い」ことに起因するのか、確かめたほうがよいと思われる。興味があると語ったDTPオペレーターの仕事はR領域で、結果と合致していた。

は就きたくないという気持ちもあり、迷っている。

■中学・高校時代

小学生の頃から漫画を読むのが好きで、なんとなく漫画家にあこがれていた。

中学2年くらいから自分でも描くようになり、兄や妹には喜んで見せていたが、友人に対してはどうも恥ずかしい、けなされるのがいやなので見せたことはなかった。

美術の授業は楽しかったし評価もよ

く、漫画やイラストを描いて生きていければいいなとは思ったが、現実を考えると無理だろうなという気持ちはもっていた。高校を卒業してデザインの専門学校に進んだのは、少しは関係のありそうな分野だろうと考えたからで、具体的にどういう仕事をイメージしていたわけではない。

「どれをやってもうまくできないように思えた」との言葉から、できそうかどうかで答えていたことが想像される。A検査では、あくまでも「やりたいか」「やりたくない」かで回答し、できそうかどうかは考慮しなくてよい。Aさんのように前職で自信をなくしているような場合は、このようなバイアスを取り除いて実施することが重要である。

■VRTの自分の結果を見て

VRTを受けているとき、あまり気が進まなかった。「やりたい」か「やりたくない」かで答えるのは難しく、ど

れをやってもうまくできないように思えた。



本人自身が「人と接するのは苦手」というように、面談中もうつむき加減で恐る恐る話している様子だった。

Aさんは就業していた7カ月間のことを話しながらなかった。職業生活の中で、何か大きな衝撃を経験し、それからまだ立ち直れないでいるように思われた。それは過去の生活に触れることを極端に恐れている様子からも推察されたし、検査結果の極端な低さにも反映しているように思われる。唯一、興味は75パーセンタイルと高かったR領域にしても、自信が42パーセンタイルと低かった。

検査結果を早急に解釈しようとせず、少し時間をかけても来談者が安心してカウンセラーと向き合い、話してみたいという気になり、相談を継続できる状態をつくることも大切と思われる。

アメリカの心理学者J・L・ホランドによって類型化された六つの職業領域（現実的、研究的、芸術的、社会的、企業的、慣習的）への興味・自信と三方向の日常行動特性（対情報、対人、対物）から、職業興味と職務遂行に関する自信度、基礎的志向性の特徴がわかる。

・学生・生徒の進路選択への関心・意欲を高めるため
・就職希望者が就職先を絞る手がかりとして
・進学希望者が進学先を検討する手がかりとして
・職業情報学習の材料として
・教師の生徒理解・指導方針作りに役立てるため
と、幅広く利用できる。

個人の結果プロフィールでは、標準得点としてパーセンタイル順位が用いられており、個人の尺度ごとの粗点（各検査の回答を集計して得られる得点）が、基準集団の中でどのあたりに位置づけられるかを明らかにすることができ、個人の特徴がわかるようになってきている（平均が50、1標準偏差が20になるように換算されている）。

1972年に公表されて以来、全国の中学校、高等学校、大学、職業相談機関等で広く活用されている。

大学で

Bさん 女性 23歳

大学文学部4年生
就職活動中

就職活動に入る前までは漠然と商社に勤めたいと思っていた。しかし、商社で自分がどのような仕事をするのかまったくイメージがわからず、迷いだした。また、女性が一生続けられる仕事となると公務員もよいのではと思い始めた。どちらにするか進路に迷っている。

■商社を希望した理由

商社というのは「花形職場のイメージ」だったので、なんとなくそこに入りたいと思っていた。が、そこで具体的に何をやってみたいかを思い描くことはできない。OLと言えば商社という通俗的な先入観だったかもしれない。

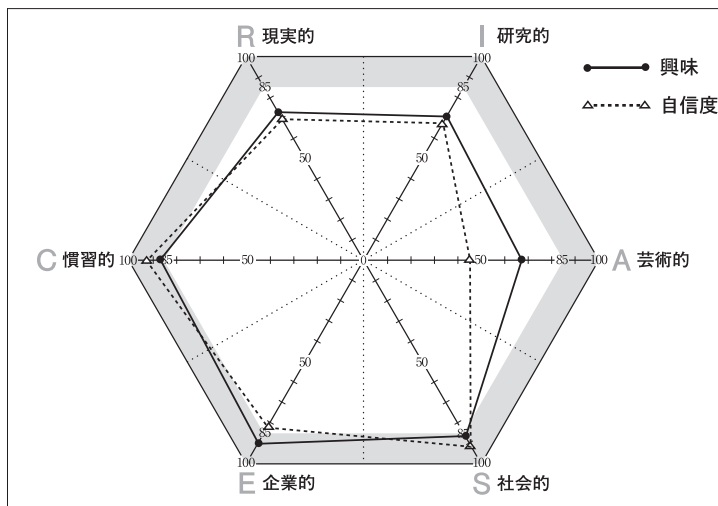
■公務員がよいと思った理由

これからは女性も一生仕事をもつべ



VRT 結果プロフィール

■興味(A検査)と自信(C検査)の六角形



■VRTの結果について

興味領域では、全体的に比較的高い。自分の興味が明確になっていないようである。職業理解が進んでいない可能性がある。C検査の得点も概して高い。

■学生生活

大学の文学部に進んだのは、特に深く考えたわけではない。高校時代に数学が苦手だったので文系なら何でもいみたいな感じで、学部も幅広く受験

きであり、自立した将来を考えたい。公務員は一生続けられると思う。公務員の仕事の内容についてはあまり考えてみなかった。公務員の仕事にもいろいろあるだろうし、具体的なイメージはわからないので、正直好きかどうかかわからない。

GATB

General Aptitude Test Battery

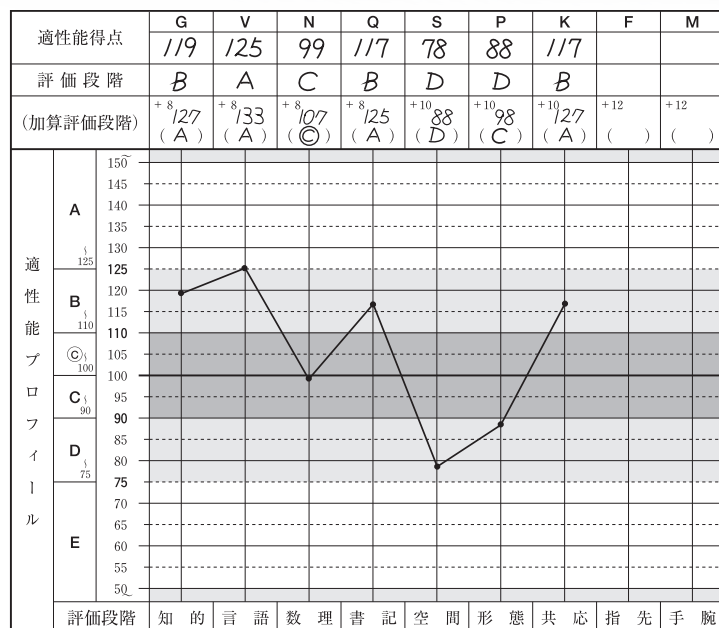
厚生労働省編
一般職業適性検査



厚生労働省編 一般職業適性検査 (GATB) は、多様な職業分野で仕事をするうえで必要とされる代表的な9種の能力(適性能)を測定することにより、個人の理解や適職領域の探索等、望ましい職業選択を行うための情報を提供することを目的として作成された。

15種類の下位検査(うち11種類が紙筆検査Ⅱ筆記検査、4種類が器具検査)から次の九つの適性能が測定され、さらに13領域40適性職業群に編成され、設定された基準と、個人の適性プロフィールを照合するこ

GATB 結果プロフィール



■GATBの結果について

知的 (G)、言語 (V)、書記 (Q)、共応 (K) が比較的高く、空間 (S)、形態 (P) が低めという結果だった。事務関係の職業群の所要基準は満たしていた。

した。
学生生活は、あまり勉強はしなかったが、イベント関連のサークル活動が楽しくて、自分なりに充実していたと思う。

■VRTの自分の結果を見て

回答しているときは、ほとんどの職業に関心をもったし、やればできそうだと思えた。それは、仕事の内容について理解していないからだろうか……。具体的にそれがどのような課題に対してどのような作業をする仕事なのか、そのためにどのような知識や技

能、技術が必要とされるのか、といったことについてはほとんど考えたことがないし、イメージすることもできないことは確かである。

本人は、「市役所職員と気になるいくつかの職業情報をよく調べ、その職業が求めている能力」についても確認してみたいと後日、GATBの実施を希望した。

■GATBの自分の結果を見て

職業、仕事によって求められる能力が異なり、自分の潜在能力に合ったものがあるということを知った。どの仕

事がどのような能力を必要としているのかを調べながら、自分に合った仕事を探索していきたい。

Nさんはこれまで、根拠のはっきりしない思い込みや漠然としたイメージにとられ、信頼できる職業情報に接する機会がなかったようである。

自分で「これではいけない」と思ったものの、職業理解が未熟であるため、一生続ける仕事＝公務員という発想となったと思われる。

まずは、市役所職員を手がかりにして職業について調べて理解をしていくこと。

希望する職業や職種について具体的に知ることは重要である。「どんな仕事をするのか」「どのような特性が要求されるのか」「自分に適しているのか」などをよく考えないままに、安易に業界や企業名だけで選択した就職は、「こんなはずではなかった」という後悔につながりやすい。

例えば市役所職員の仕事の場合、

- ①何をどのようにするのか
 - ②どのような課題や作業内容から成り立っているのか
 - ③必要な資格、知識、技能はあるか
 - ④責任の程度はどうか
- などについての情報を得て、知ることが大切である。

とによって、幅広く適職を吟味することができる。

●測定される適性能

【紙筆検査】

G―知的能力

V―言語能力

N―数理能力

Q―書記的知覚

S―空間判断力

P―形態知覚

K―運動共応

【器具検査】

F―指先の器用さ

M―手腕の器用さ

個人の結果プロフィールでは、標準得点として適性能得点が用いられており、個人の尺度ごとの粗点（各検査の回答を集計して得られる得点）が、基準集団の中でどのあたりに位置づけられるかを明らかにすることができ、個人の特徴がわかるようになっている（平均が100、1標準偏差が20になるように換算されている）。

米国家労働省が作成したGATBを原案に、昭和27年に我が国労働省が翻案して公表。以来60年以上にわたり改訂が重ねられ、進路指導・職業指導の場で広く信頼され、利用されている。

就職支援機関で

Cさん 男性 25歳

大学経済学部卒
家電量販店入社2年目

今の仕事は不本意で就職した。自分にとっては一番苦手なものとの認識が強く、転職を考えている。その前に自分の適性について検討したい。

■新卒時の就職活動について

新卒時の就職活動ではもともとメーカーを希望していた。今思えば深く考えていたわけではなく、会社のイメージとして代表的なのがメーカーだった、という感じ。活動中に周りがほとんど就職を決めていくのを見て焦ってしまい、成り行きで決めて今の家電量販店に入社した。

■現在の仕事について

パソコン売り場で販売を担当。パソコンにはそれほど興味はない。お客さんからはさまざまな質問があつて対応しきれないと思うこともしばしばで、毎日店に立つのを苦痛に感じている。先輩を見てみると、自分はずくづくお客さんを相手に臨機応変に対応することとは苦手だと思う。

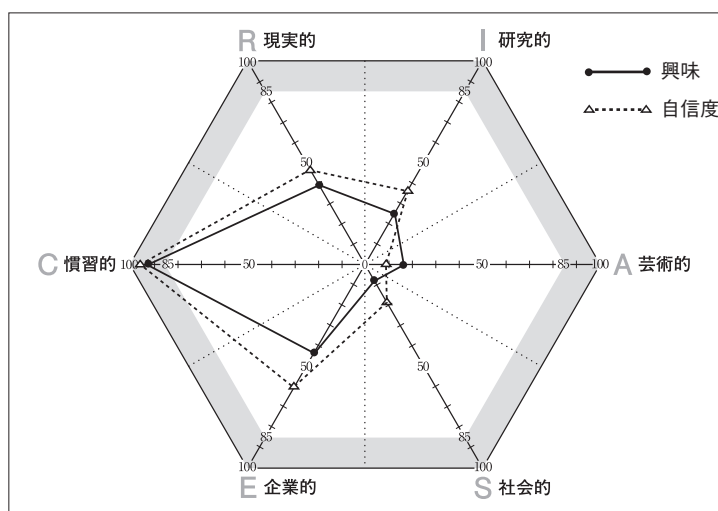
接客以外にも、店頭での商品の陳列（ディスプレイ）などの仕事もあるが、最も苦手である。工夫しながら見る人にわかりやすく、きれいに並べるということができない。感覚的、創造的な仕事は向いてないと思う。

■好きな仕事

マニュアルどおりに、じっくりと取り組める仕事のほうが好き。売上伝票

VRT 結果プロフィール

■興味 (A検査) と自信 (C検査) の六角形



■VRTの結果について

興味領域でのKさんの特徴は、C領域のみが90パーセンタイル以上と突出して高く、その他は非常に低いこと。ルールに従って行うような定型的な仕事に興味が高いということで、対人的な仕事（S領域）や創造的、感覚的な能力や関心を求められる仕事（A領域）にはあまり興味はないようである。一方では、組織で働き、企画を考えたりすることには興味も自信も一定程度ある（E領域）という結果であった。

を整理して集計する仕事などは苦にならない。早くしなくてはいけないという時間的制約があつて急かされるのはイヤだが。

自分としては大学のゼミで勉強した経理・会計の知識を活かした経理事務の仕事が向いているのではないかと思う。当時はなんとなく面白そうだったから選り、簿記2級を取ったりしたが、そういう志向があつたのかもしれない。今ひとつ確信がもてないので、転職する前に適性を客観的に確認しておきたい。

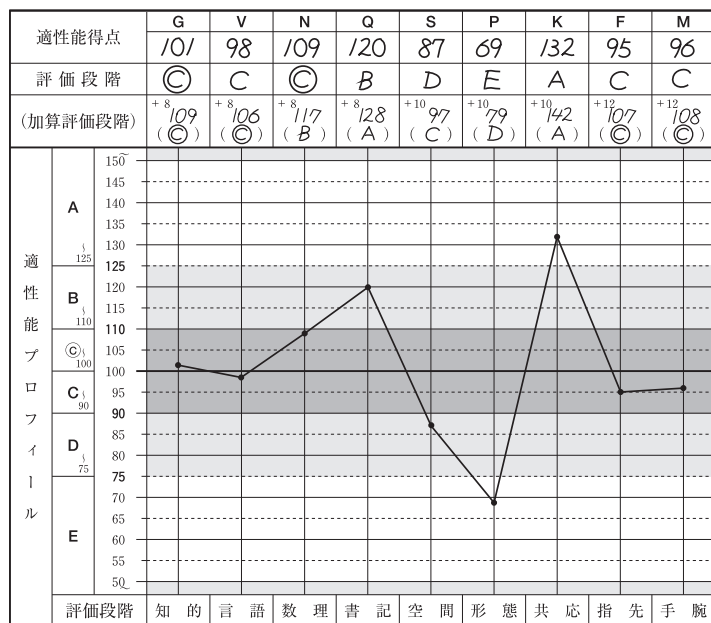
■VRTの自分の結果を見て

決まったやり方に従って、手堅い活動をするのを好むという傾向は、自分の思っていたことと一致するので、納得でき、安心した。転職に向けて準備したい気持ちになつてきた。

Cの領域にある仕事では、会計事務員、経理事務員、税理士、公認会計士などが気になった。

先日、インターネットで国税専門官という仕事があるのを見て、興味を引かれた。きちんと決まったことをしていく仕事で、自分に合っているのでは

GATB 結果プロフィール



■GATBの結果について

GATBの結果では、Kさんが希望する経理・会計の職業群の基準（G:90、N:90、Q:100）を満たしていた。書記的知覚（Q）が比較的高い特徴をもっており、VRTのC領域への関心の強さと併せて考えると、経理事務の職業は向いていると言える。公認会計士は法務、財務の仕事となり、所要適性能基準も高くなり（G:125、V:125、N:100）、試験にも合格する必要があるので、すぐに就くのは難しいと思われる。また、プロフィールには直接出てきていないが、各検査の回答に遡って個別に見てみると、間違い（誤答）が少なく、丁寧な取り組みをしていることが察せられた。

ないか。試験を受けて合格しなければならぬが、そのためにこれから準備を始めて勉強することは、苦にならないような気がする。

今から勉強して国税専門官試験に合格するとは思えないので、まずは、とりあえず別の道で就職することも考えたい。企業規模にこだわらずに経理事務の求人を探してみたり、会計事務所などに入って、資格の勉強をするというのでもいいかもしれない。

本人は、国税専門官、会計士などを目指すという方向での計画をより具体的にするため

に、「能力面も確認しておきたい」との希望を述べた。次回、GATB（厚生労働省編一般職業適性検査）を行うこととなった。

■GATBの自分の結果を見て

やはり公認会計士などは難しいかもしれないが、経理の仕事は合うと思うので、よかったと思った。勇気づけられた。求職活動をしていく励みになりそう。

Kさんはやや心理検査に期待をしすぎている傾向が見られた。「GATBで測定できる範囲では適性がある」ということで、これで何でもわかるわけではなく、いろいろな面から職業適性をとらえていく必要があることを伝える。Kさんの場合は、VRTでの職業興味も合致しており、経理の仕事への意欲もあるので、方向性としてはよいと思われる。

後で、「転職するとなるとちょっと不安なので、客観的なデータの裏付けが欲しかったのかもしれない」と述べた。

プロフィールや適性職業群の基準を満たしているか否か以外にも、職業への意欲や興味、価値観や環境への適応力などさまざまな要素があるので、希望する仕事と関連づけて多角的に考えてみることを促す。

●フィードバックのヒント

山本公子

相談支援にアセスメントを取り入れることで、その人の全体像や直感的な印象を生かしつつ、客観性を高め、相談の信頼性を増すことが可能になる。結果が思いがけないものであったとしても、一つずつの回答の積み重ねには、そのときの本人の一面が表れている。

どういう主訴や目的をもって、どんな気持ちで相談に来たか、問題に回答しながら、考えていたこと、結果をどう思ったかなど、心の内は面談で話し合い、尋ねていく。

4事例の結果には、彼・彼女の志向性や能力特徴が表れている。本人自身も結果説明を受けて、改めて自分のことを考え、気づきがあったようである。

●Aさんは、就職支援を急がず、当分話し合いを続け、気持ちを整理していく方針が立てられるかもしれない。●Bさんは商社というイメージの先行から、本来の自分に合った方向に一步を進めた。力のある人なので職業情報を得ることで、より現実的で納得できる選択に進めそう。●Cさんのケースでは経理・会計への志向性や適性（標準的なレベル）が示され、本人の考えが支持された。●Dさんは「人と一緒に何かしたい、チームで目標に向かう、旅行好き」等が結果に反映された。Eの高さは、リーダーシップ性の表れかもしれない。さらに聴いて、強みの発見や将来の可能性につなげられるかもしれない。

高等学校で

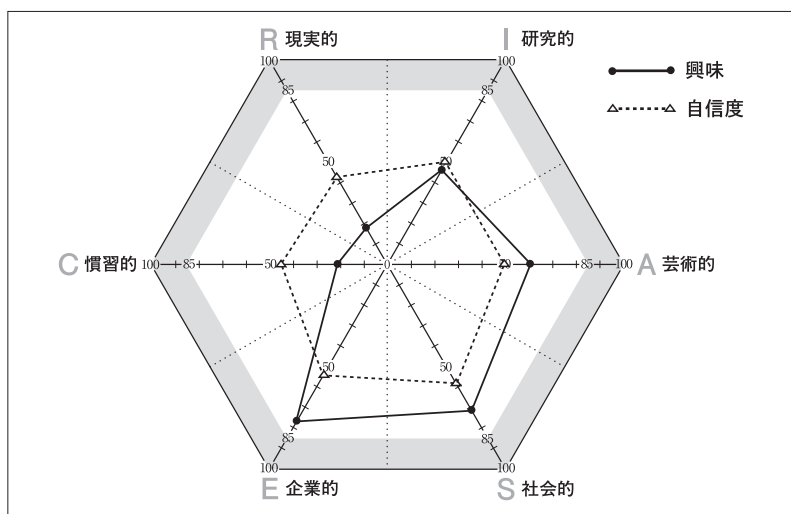
Dさん 女性 18歳

高校3年生

高校新卒女子の就職先としては、事務職や販売職が多いようだが、自分がどちらに向いているかわからない。そのほかにも適職があれば考えてみたい。

VRT 結果プロフィール

■興味 (A検査) と自信 (C検査) の六角形



■VRTの結果について

検査の所要時間が約40分と比較的長く、A検査、C検査で「どちらともいえない」が約3分の1と多く、話からも、職業知識の乏しさが推察された。Eさんの興味は、E領域が一番高く、次いでS領域で、CとR領域が目立って低かった。興味は分化しているといえる。E領域への興味が高いことは、本人の自己分析と一致している。人々に接することの多い環境の中で、規則や慣習にとらわれずに自分のアイデアや計画をどんどん打ち出していく仕事を好む傾向があるといえる。基礎的志向性 (B検査) のプロフィールからも、対人志向の強さがみられる。将来成長してリーダーシップを発揮する方向に行くことも考えられる。

興味の高かった「E: 企業的領域」と「S: 社会的領域」に属する関連職業の中から、特に関心の高いものをいくつか選び出し、仕事の内容などについて調べてみるよう促す。

Eさんは、特に関心をひかれたという「旅行会社添乗員」と、A検査の「22ホテルで、宿泊客の受付や、案内などのサービスをする」に○をつけたこともあり、「ホテルフロント係」について、いま求人情報の有無や求められる能力なども含めて具体的に調べている。

Eさんの興味が比較的低かった「R: 現実的領域」と「C: 慣習的領域」に属する職業分野の仕事の内容と職業例について、どのように感じるかを尋ねてみると、「不器用なので機械いじりや物を作るのは好きではない。また、事務的な仕事は必ずしも嫌いではないが、あまり関心はない」と答えた。

職場や仕事を探すに当たっては、「結果の見方・生かし方」のWORK3、「仕事と職業の六角形」を利用して、興味領域についてもう一步踏み込んでみることを勧める。

漠然と思ってはいたが、検査結果から少しはつきりした。いつも大勢の人の中にいることが好きだし、人を観察したり、見知らぬ人と出会うことも楽しい。

■自己分析

空港とかホテルなどのような雰囲気が好き。自分の性格については、いろんな人と一緒に何かをしたい傾向があり、自分が良いと思ったことは何でもどんどんやっていくタイプだと思う。

■高校生活

ダンス部で毎日練習に明け暮れていた。集団による表現とかチームで一つ



の目標に向かっていくことの面白さがあった。

旅行が好きで、修学旅行やダンス部の合宿も毎回すごく楽しんでいたし、ときどき友人同士で旅行していた。時間とお金に余裕があればいろいろな海外にも行ってみたい

■VRTの自分の結果を見て

VRTの結果は、自分の性格をよく表していると思う。また、空港やホテルのような華やいだ雰囲気が好きだと



厚生労働省編 一般職業適性検査のコンピュータ判定

雇用問題研究会では、便利なコンピュータ判定処理サービスを行っています。採点・換算・整理の手間を省き、見やすくわかりやすい判定結果を提供いたします。

コンピュータ判定には【ベーシックコース】【プラスコース】の2コースがあります。

判定結果の厳正な管理とプライバシー保護（個人情報の保護と秘密保持）に万全を期しておりますので、どうぞご活用ください。

採点・整理の手間のない
便利な
コンピュータ判定

ベーシックコース

330 円（1 名分・税込み）

判定結果は、個人別検査結果票とクラス別検査結果一覧表をご提供。適性得点により、**自分の結果が他者と比べて、どの位置にあるか、職業が必要とする基準（所要適性基準）を満たしているかどうか**がわかります。

プラスコース

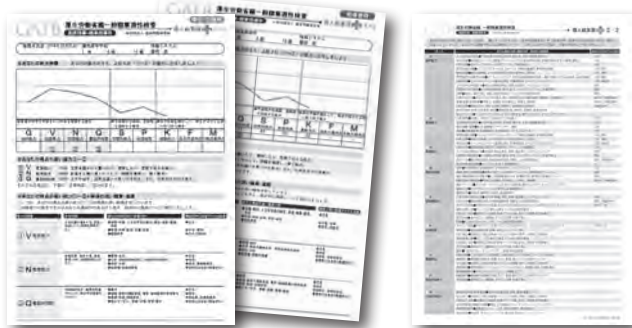
400 円（1 名分・税込み）

ベーシックコースと違い、他者との比較や所要基準との照合をせずに、**自分の中の得意な面を知り、職業探索につなげていきやすいシンプルなお結果票**をご提供します。

得点の目盛りの表示がないので、本人にとって、過度に他人との比較にこだわることなく、自分自身の特徴を理解し、将来について考える材料とすることができます。



ベーシックコースの結果票に加えて、以下がプラスされます。



個人結果票プラス—1/2
(前:学生・生徒用 / 後:指導者用)

個人結果票プラス—2/2
(学生・生徒 / 指導者用 共通)



結果の見方・生かし方

※スタンダードコース、プラスコース共通

検査の結果で高く示された適性能を生かすことのできる職業にはどのようなものがあるか、その可能性を知り、成功しやすい職業を発見することができます。生徒・学生が自身でワークを行うことで、能力面での自己イメージの形成・理解を促します。



●手引—1,100円

進路指導の実際に即して、本検査を活用する方法を具体的かつ詳細に解説しています。初めてご利用の際は、手引をよく読み、理解していただく必要があります。

手引を使用しての自己採点も可能です。

採点盤、検査実施者用検査用紙付。



●Q&A—864円

GATBについての基本的な質問や疑問に対して、専門家による解説をQ&A形式で簡明にまとめた、実施・活用にあたっての実用的なハンドブック。正しい理解と適切な実施で、キャリア・ガイダンス、キャリア・コンサルティングにいっそう効果的に活用できます。

発行所 一般社団法人 雇用問題研究会 <http://www.koyoerc.or.jp>

入門者から専門家まで キャリア支援のスキルアップなら日精研!!

カウンセリングのスキルアップに

10/8~11/5

「ヘルピングスキル」

講師: 遊佐 安一郎 (長谷川メンタルヘルス研究所)

10/9~10/30

「働く人の心理学」

講師: 岡田 昌毅 (筑波大学大学院教授)

連絡先

(株)日本・精神技術研究所
東京都千代田区九段南2-3-27 あや九段ビル2階 TEL 03(3234)2965

スーパービジョンでスキルを磨く

10/2

「スーパービジョン入門」

10/10~12

「キャリア・カウンセリング グループ・スーパービジョン」

講師(スーパーバイザー): 平木 典子 (統合的心理療法研究所)

その他、
キャリア講座多数

詳細は

日精研 キャリア

検索

「職業研究」を
見たという方
は1000円割引